山　650－1999・7・20（第三種郵便物認可）

第650号平成11年7月20日発行（毎月20日発行）
昭和49年8月31日第三種郵便物認可

平成11年度通常総会
新会長に大塚博美氏を選出

大塚新会長はじめ理事たち

平成十一年度通常総会が五月十五日午後二時から、東京・九段南の九段会館で開かれた。総会には、会員百四十一人が出席、①平成十年度事業報告及び収支決算・財産目録承認の件②平成十一年度事業計画案及び収支予算案承認の件③平成十一年度役員及び評議員改選の件④平成十一年度除籍者の件―について慎重審議し、いずれも原案どおり可決承認した。新会長には大塚博美氏が選出された。（事業報告等の内容は別掲）

■会長報告
百周年事業の準備進む

議案審議に先立ち、斎藤惇生会長は、平成十年度の活動を振り返ってあらまし次のように報告した。

「昨年度の総会で、カンチェンジュンガ登山隊の登頂連絡を待ちわびていると報告した。登頂はしたが、犠牲者を出した。反省しなければならない。ポカラ山岳博物館の建設資金の募金では多大なご協力をいただいた。ネパールトレッキングは百二十四人の参加を得て大盛況だった。晩餐会では第一回秩父宮記念山岳賞を授与することができた。マレーシア山岳会長やボナッティ夫妻らの来訪を受けるなど海外との交流も活発だった。二〇〇〇年にむけてのカナダ・アルバータ峰の日加合同登山またトレッキングの計画も意欲的に順調に進んでいる。ガンカー・プンスム峰への登山は、ブータン政府の意向で延期になったが、同じ山域のリャンカン・カンリ峰に日本山岳会とは独立した隊を編成して登頂、成功した。学生部はブータンに挑戦。二〇〇五年の創立百周年に向けての活動も活発であり、岐阜支部が主管する「新日本山岳志」の編纂、また青

1999年（平成11年）
7月号（No.650）
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価1部　150円

目　次

平成11年度通常総会 ……1
会長就任に際して……4
平成11年度理事・監事・評議員…4
平成10年度事業報告書 ……5
収支計算書……6
正味財産増減計算書・貸借対照表…7
財産目録・監事監査報告……8
平成11年度事業計画書 ……10
平成11年度収支予算書（案）……11
海外の山 ……12
報告
フォトビデオク・写真展 ……13
ＰＣ導入検討委・俗字など ……13
三水会・智異山／玉山 ……14
92同期会・八ヶ岳 ……15
支部だより
秋田支部・モッコ岳 ……16
岐阜支部・支部総会と七洞岳登山／タクラマカン砂漠縦断 ……16
短歌・人通わねば ……17
図書紹介 ……18
『湿原の花と山』『山歩き五十年』『妻と二人の山歩き－心得編』『コーボルト―70年―』
ルーム日誌 ……18
さんけんだより ……19
図書受入報告 ……20
新入会員 ……21
会務報告 ……22
INFORMATION ……23

▶日本山岳会事務取扱時間
月・火・木 ……10～20時
水・金 ……13～20時
第2、第4土曜日 ……閉室
第1、第3、第5土曜日 …10～18時
▶図書室開室時間
日曜・祭日・月曜日を除く毎日 …
……13～20時
▶ルーム夏期休室日 …8月14～22日

森支部の提案で白神山地のブナ植林計画が進んでいる。上高地・山岳研究所にミニ水力発電所を建設する事業も順調に進んでいる」。

■事業報告・収支決算
会費納入率九五％の高率を維持

この日の総会には二千五百四十三の委任状が提出された。三月末の会員は五千八百六十五人であり、出席者と合わせると、会員の三分の一を上回った。議事録の署名人には鴫原一男、堀嘉余子両会員が指名された。

平成十年度の事業報告は絹川祥夫総務担当常務理事、収支決算及び財産目録については吉永英明財務担当常務理事が詳細に説明した。

【事業報告】事業活動は国内外とも活発だった。ガンカー・プンスム偵察隊、ネパールでのシャクナゲ植林、マレーシア山岳協会や中国登山協会との交流など。そして国内では九月に秋田で全国支部懇談会が開かれ、百六十人を超える参加があった。中高年対策として集会委員会が山歩きを実施し、会報「山」で特集を掲載した。科学委員会はシンポジウムを開いた。ポカラ山岳博物館建設のための募金は千三百四十万円に達した。

【収支決算等】収支決算は、収入が九千四百八十一万円となり、予算を千三百二十三万円、一六・二％上回った。予算に計上していない補助金収入が八百五十二万円あったためだ。内訳は、ネパールのシャクナゲ植林に対する環境事業団環境基金からの三百九十万円、ガンカー・プンスム登山隊に対する読売新聞社からの四百六十二万円。

会費・入会金は七千二百五十七万円で、収入全体の七六・五％占めた。会費納入率は九五％と高い率を維持している。入会は二百三十五人だった。予定を若干下回った。その他事業収入はネクタイ、Tシャツ等のいわゆるグッズ販売収入だが、経済情勢を反映してか、あまり売れなくなった。山研使用料収入は二百三十八万円。一千人以上の利用を予定したが、群発地震と長雨の影響で六百二十六人にとどまった。

支出は九千五百九十四万円で予算を千四百五十八万円上回ったが、調査研究費としてネパールのシャクナゲ植林およびガンカー・プンスム登山偵察隊の派遣が含まれる。運営管理費のなかで予算と大きく違ったものはその他管理費だが、これはパソコンを購入したためだ。二〇〇〇年に対応するためで三百二十二万円の支出。八月から新しいパソコンで会員管理を行う。

これらの結果、当期収支は百十三万円の赤字となったが、正味財産は、「百周年」や山研修理費のための積み立てを増やした結果、六百十三万円増の三億九千九十九万円となった。

財産の運用について、吉永常務理事から「二年後に銀行預金のペイオフが始まる。一千万円を超える預金は保護されない。財産をどのように管理していくのか、みなさんの知恵を借りながら検討したい」との発言があった。

これらに対し石橋正美・神崎忠男両監事から収支計算書等が正確妥当であり、さらに理事の業務執行が誠実に行われたことを認める監査報告があった。

■事業計画・収支予算
白神山地で「体験造林業」調査

平成十一年度の事業計画案・収支予算案についても絹川常務理事、吉永常務理事が詳細に説明した。

主な事業計画は、①山研でウエストン特別展を開催②ネパールのシャクナゲ植林の継続実施③白神山地で「体験造林業」調査の実施④第十次マッキンリー気象観測の実施⑤学生部の日中学生合同登山⑥十一月中旬に「中高年の高所登山を考えるセミナー」開催⑦インターネットホームページの本格活動⑧第二回秩父宮記念山岳賞の表彰⑨山研にミニ水力発電を設置―など。マッキンリー気象観測の登山は今年度で打ち切りデータ解析にはいる。日中学生合同登山は九～十月の予定。第二回秩父宮記念山岳賞は七月末に応募を締め切る。

これらに対する予算は収支均衡型を貫き、前年度予算比百七十七万円増の八千三百三十五万円とした。会費・入会金収入が総収入の八五％を占める。事業収入は、広告料金収入を同百十万円増、山研利用料収入を同十七万円増とした。支出でふやしたのは、会報増ページのための出版費、支部会員増に対応しての支部関係費、名簿作成のための印刷・製本費など。

■役員改選・報告事項
秋田など三支部長の交代を紹介

活発な質疑応答のあと、各議案を承認。役員・評議員の改選に移った。理事と監事は評議員から、評議員は理事から推薦を受けることになっており、その推薦者を大きな拍手でもって承認した。この結果、会長が交代、理事と評議員のほぼ半数がそれぞれに入れ替わった。

平成十一年度の除籍対象者は五十五人で、昨年度と同じ。会費を二年間滞納した人が対象となる。実際の除籍者は、昨年度は三十八人だった。前々年度の五十七人、前年度の四十人より減ってはいるが、これに関し、

知人に声をかけ会費を納めて留まるよう勧めて欲しいという要請があった。報告事項として、支部長の交代が紹介された。新支部長は次のとおり。

秋田　佐藤　兼治
山形　木村喜代志
広島　平位　剛

■新会長挨拶
多彩な会員活動を支援

議事終了のあと、新役員・評議員が紹介され、大塚博美新会長は「日本山岳会は、ふところが深いクラブである。人材は豊富であり、しかも質がいい。世界でも珍しいアルパインクラブではないかと思っている。創立百年に向けて、多くの会員の多彩な活動を支援できる環境づくりを実践していきたい」と挨拶した。

斎藤惇生会長は、退任にあたって次のように挨拶した。

「日本山岳会の活力を維持していくことを考え、若い人の活動を全面的に支援し、中高年の皆さんに対しては安全登山とともにパイオニアワークを実践するようお願いしてきた。日本山岳会は、残念ながら、伝統的に指導することが少なかったが、この考えを改め意欲的な登山にもっていかなければならないと思う。

前会長からは三つの宿題をいただいた。そのうち、秩父宮記念山岳賞、ポカラ山岳博物館の建設募金は皆さんのご協力を得て実現することができた。もうひとつの「山岳博物館」の建設は前進しなかった。

日本人がアドベンチャーの山を忘れてしまっては民族が滅びてしまう。探検精神を発揮し続けていくことが大切だ。これに日本山岳会が大きな力をもっていけたらと思う」

■懇親会

総会終了後、午後四時から隣室で懇親会を開いた。織内信彦名誉会員が「新旧会長の労をねぎらうとともにすべての会員の発展を祈念したい」と音頭をとって乾杯し、和やかな歓談を続けた。五時半散会。

■質疑応答
山研利用の活性化を図る

柴田篤志会員　パソコンを購入したと説明されたが、備品の新規取得はなかったとも説明された。

吉永英明常務理事　パソコンはリースにした。三百二十二万円の支出は大きいようだが、ソフトを含めての支出である。

木名瀬亘会員　山研維持のため減価償却の形で建設資金を積み立てていくべきではないか。

吉永常務理事　公益法人にとって減価償却の制度はなじまない。しかし、将来の改築等に備えて昨年度から百万円ずつ積み立てることにしている。

柴田会員　海外登山補助金に関連して、募金の取り扱いは厳正か。好ましくない風評がある。

小倉茂暉副会長　風評は事実無根だろう。吉永常務理事が「理事といえども現金にはさわらないようにしてきた」と報告したように、間違いが起こらないようにしている。

石田稔郎会員　自然保護委員会など委員会活動が活発であり、これは望ましいことではあるが、委員会が主催しているような印象を受ける催しもあり、けじめをつけたい。

小倉副会長　委員会の活動は日本山岳会が主催して行っているものであり、委員会はこれを主管していると理解してほしい。

石田会員　年次晩餐会の出席者名簿に「支部首都圏」と記載されている。首都圏支部はないのだから、改めるべきではないか。

小倉副会長　在住を表すために便宜上、首都圏と記載している。在住を表していることが分かるようにしたい。

山田二郎元会長　ルームのなかで借りている部分を買い取ってはどうか。そのような形で財産を管理する方法もある。

吉永常務理事　二年に一回契約更改する際に買い取る考えのあることを申し入れている。

山田元会長　ガンカー・プンスム登山のために読売新聞社から助成金をいただいたという報告があったが、延期になったのだから返済すべきではないか。

斎藤惇生会長・吉永常務理事　実は二千万円の助成金をいただいた。中止になったのだからお返ししたいと申し出たところ、偵察隊の費用は実際にかかったのだから受け取って欲しといわれた。四百六十二万円は、その費用である。

柴田会員　山研使用料をどのようにしてふやすのか。

坂本正智山研運営担当理事　山研の利用者は平均して年間八百人ぐらい。会員全体の一割くらいしか利用していない現状だ。基本的には会員の施設なのだから、もっと利用してほしいと思うが、利用をふやすため、さまざまな試みを考えている。ウエストン特別展を開催するほか、各支部・委員会等の協力を得て写真展等を開催、また登山教室や写真教室を実施し、その際に山研を利用していただく。さらに利用料を一部改定し、たとえば会員の配偶者も会員と同じにすることとした。

柴田会員　山研の利用料の徴収は

厳正に行われているか。

坂本理事　当番が実際の利用者名簿と料金徴収の状況を丹念にチェックし間違いを起こさないようにしている。

（写真・村井葵、文・高橋重之）

会長就任に際して
―古きのれんに活力を―

大塚　博美

本年五月、平成十一年度通常会員総会において皆さまのご推挙をいただき、会長に就任いたしました。

入会以来五十年になりますが、長い歴史と伝統のあるJACの会長職に就くということは誠に光栄なことと、驚き、悦び、緊張いたしております。私が今日まで長く会に在籍できたのは、多くの先輩、友人、会員諸兄姉の温かい励ましや、友情の賜物と深く感謝いたしております。そして誰にも増して幸運に恵まれ、いくつかの大きな登山を経験することができました。これは私が会から授かった貴重な体験であり財産だと思っております。

私事にわたって恐縮ですが、故人になられた槙さん、松方さん、今西（壽）さんら大先輩の驥尾に接し、登山に同行できたことがその最大のものだと信じております。

JACは山好きな個々人が集まって成立しているアルパインクラブですから、山に登ることを中心に、山に関する自然科学、文化活動を行うところです。したがいまして会の運営を任された理事、評議員は『クラブサーバント（会に奉仕する者）』の立場だと思います。私はこの思いに徹して任期中重責を果たしたいと思っております。

会員数もやがて六千人にも達する現在、多士済済の会員構成は壮観で会の誇りであり財産であると思っておりますが、会長はじめ理事、評議員の第一の仕事は、これら会員の活動―高峰を目指す厳しい登山から、科学、文化教養面の知的なチャレンジ―が行いやすい環境作りと、その支援をすることだと思っております。

前会長のバトンをリレーしてしっかりとそれらを継承して行くつもりです。

私の任期は来るべき創立百周年（二〇〇五年）の活動に向けての土台づくりの期間と位置づけ、また会員へのメッセージの伝達手段として月刊会報『山』に重点を置きたいと思います。さらに海外との交流もホームページ、Eメールなどを積極的に活用して行きたいと思っております。もちろん年報の『山岳』は会の歴史としての最重要性は言うまでもありません。

皆さまとともに楽しいクラブライフを目指し、アグレッシブなチャレンジ精神で取り組んで行きたいと念願しておりますので、何卒よろしく皆さまのご支援、ご叱正のほどお願い申し上げます。

■平成十一年度理事・監事・評議員

会長	大塚　博美	新
副会長	小倉　茂暉	再
同	大森　薫雄	再
同	竹内　哲夫	再
理事（カッコ内は担当）		
（学生部・指導）	宮崎　紘一	再
（会報編集）	村井　葵	再
（山研）	坂本　正智	再
（集会）	勝山　康雄	再
（医療・海外）	増山　茂	再
（科学研究）	森　武昭	再
（フィルムビデオ・資料）	鯵坂　青青	再
（自然保護）	河西瑛一郎	新
（財務）	村井　龍一	新
（山岳・百年史）	高遠　宏	新
（図書）	宮下　啓三	新
（総務）	西村　政晃	新
（同）	高原　三平	新
（高所）	坂井　広志	新
（青年部）	山本　篤	新
（指導・遭難対策）	松原　尚之	新
監事	神崎　忠男	再
同	中村　保	新
評議員	若林啓之助	再
	平山　善吉	再
	中村　純二	再
	芳賀　孝郎	再
	山本健一郎	再
	宮下　秀樹	再
	岩間　弘雄	再
	中川　武	再
	平野　眞市	再
	魚本　定良	再
	中谷　充	再
	田邊　壽	新
	山本　久子	新
	平林　克敏	新
	斎藤　惇生	新
	尾上　昇	新
	吉永　英明	新
	宇田川芳伸	新
	絹川　祥夫	新
	古市　進	新

10月16日　第6回山を語る（図書）　本会
10月17～18日　キノコ山行（集会）　小白森山・二岐山
10月18日　カナダ山岳会会長モーティマー氏来日（海外）　本会
10月21日　アルバータ峰プロジェクト2000年打ち合わせ（海外）　本会
10月23～25日　岩登り技術研修会（遭難対策・指導・青年・学生）　文部省登山研修所
10月13日～11月17日　ガンカー・プンスム偵察（高所）
10月30日～11月4日　カナダ山岳会年次総会・晩餐会出席（海外）
10月31日　全国山岳博物館連絡会議（資料）　本会
11月7日　秋季新入会員オリエンテーション（総務）　本会
11月8日　マラソン大会（学生）　皇居外苑
11月10日　アメリカ山岳会元会長クリンチ氏来日歓迎会（海外）　うすけばー
11月14～15日　自然保護全国集会　自然観察山行　芦生の森（自然保護）　美山町
11月14～15日　大学山岳部監督会議（学生）　奥三河、山びこの丘
11月19日　上高地山研ミニ水力発電実行委員会発足（科学・山研）　本会
11月26日　ブータン登山隊報告会（学生）　本会
11月26日　第27回山岳史懇談会（図書）　本会
11月29日　昭和山岳会創立60周年チョモランマ登頂報告・祝賀会（高所）　品川プリンスホテル
11月30日　ガンカー・プンスム偵察隊報告会（高所）　本会
12月5日　支部長会議（総務）　新高輪プリンスホテル
12月5日　年次晩餐会（総務）　新高輪プリンスホテル
12月11日　第7回山を語る（図書）　本会
12月17日　雪崩研究会（学生）　本会
1月9～10日　総務委員会ウインターセミナー（総務）　富士学園
1月15～17日　スキー懇親会（集会）　白馬八方尾根
1月15～17日　雪崩ビーコンゾンデ講習会（学生）　栂池高原
1月20～21日　白神現地調査打ち合わせ（自然保護）　青森支部
1月22日　「クロスピーク登頂」報告会（海外）　本会
1月23日　青年部ＯＢ・現役委員懇親新年会（青年）　クリオース
1月30～2月1日　アイスクライミング研修会（遭難対策・指導・青年・学生）　赤岳鉱泉周辺
2月6日　中国登山協会代表団歓迎夕食会（高所・海外）　芳蘭亭
2月11日　中国登山協会代表団歓送会（高所）　ホテルシーサイド江戸川
2月27～28日　全国支部事務局担当者会議（総務）　九段会館・本会
3月13～14日　自然観察山行忍野ハリモミ原生林（自然保護）　忍野村
3月27日　春期新入会員オリエンテーション（総務）　本会

(B) 研究会・講演会

5月25～26日　国際山岳救助・医療・技術研究セミナー（医療）　涸沢
6月24日　中国登山研究会（高所）　本会
6月30日　中国登山研究会（高所）　本会
11月20日　高所での酸素使用をめぐるセミナー（医療）　本会
11月27日　「ヒマラヤ登山を語る」山田二郎元会長講演会（高所・青年）　本会
1月29日　医療委員会研究会（医療）　本会
2月16日　ガンカー・プンスム登山のタクティクスについて」研究会（高所）　本会

(社)日本山岳会平成10年度事業報告書

1998.4.1～1999.3.31

1．登山の指導と奨励に必要な集会、研究会、講習会および展覧会の開催

(A) 集会

4月9日　学生部総会（学生）　本会
4月10～12日　中上級山岳スキー研修会（指導）　白馬岳周辺
4月18～19日　探索山行「フォッサマグナ西縁の山の地形を探る」（科学）　長坂町他
4月28日　チョモランマ／サガルマータ交差縦走10周年記念の会（高所）　明治記念館
5月8～10日　中国登山協会表敬訪問（高所）
5月9日　第5回古道を歩く（図書）　秩父顔振峠
5月16日　支部長会議（総務）　グリーンホテル
5月16日　通常総会（総会）　グリーンホテル
5月17日　カンチェンジュンガ登山隊遭難事故発生（青年）
5月21日　カンチェンジュンガ登山隊遺族事情説明会（青年）　本会
5月24～25日　若葉会山行（集会）　虎毛山
5月23～24日　第3回登山と高所環境に関する国際医学会議（医療）　松本
6月4～5日　新会員のための「ウエストン祭と焼岳登山」（山研）　上高地
6月12日　中高年登山講座（集会）　本会
6月12日　小川山集会（学生）　奥秩父小川山
6月18日　マレーシア山岳会会長歓迎会（海外）　本会
6月18日　チベット連続講座1（海外）　本会
6月21日　中高年登山講座（集会）　本会
6月23～24日　白神現地調査　植林等（自然保護）　白神山地
6月26日　委員会・同好会・同期会連絡会議（総務）　本会
6月30日　チベット連続講座2（海外）　本会
7月9日　チベット連続講座3（海外）　本会
7月11日　日本ヒマラヤ協会登山隊壮行会（高所）　池袋
7月11日　カンチェンジュンガ登山隊遭難報告・追悼会（青年）　本会
7月16日　「夏山気象入門」（科学）　本会
7月17日　チベット連続講座4（海外）　本会
7月22日　ボナッティ氏夫妻招聘委員会（海外）　本会
8月3～10月18日　上高地山研「自然エネルギー展」（科学・資料・山研）　上高地
8月5日　名誉会員を囲む会（総務）　本会
9月2日　ボナッティ氏夫妻招聘委員会（海外）　本会
9月18日　ボナッティ氏夫妻歓迎会（海外）　国際文化会館
9月19～20日　全国支部懇談会（総務）　秋田・男鹿
9月25日　原田達也委員を偲ぶ会（海外）　岸記念体育館
9月26～27日　山研プチ・オータムコンサート（山研）　上高地
10月2日　ボナッティ氏夫妻・イタリア大使夫妻と昼食会（海外）　イタリア大使館
10月2日　ボナッティ氏夫妻来室（海外・高所）　本会
10月3～4日　自然観察山行　赤沢自然休養林（自然保護）　木曾上松町
10月5・24日　陣馬山撮影会（フィルムビデオ）　陣馬山
10月12～14日　白神現地調査打ち合わせ（自然保護）　青森営林局
10月13日　カンチェンジュンガ登山隊遭難検討会（青年）　代々木オリンピックセンター

収　支　計　算　書

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで

科　　目	予算額	決算額	差　異	備考
Ⅰ．収入の部				
1.基本財産運用収入				
基本財産利息収入	80,000	51,533	28,467	
2.会費・入会金収入				
入会金収入	5,000,000	4,520,000	480,000	
復活会費収入	0	180,000	△ 180,000	
通常会費収入	65,500,000	66,677,000	△ 1,177,000	
終身会費収入	0	1,200,000	△ 1,200,000	
会費・入会金収入計	70,500,000	72,577,000	△ 2,077,000	
3.事業収入				
広告料収入	1,900,000	2,005,083	△ 105,083	
印税収入	20,000	63,305	△ 43,305	
刊行物頒布収入	200,000	380,900	△ 180,900	
その他事業収入	4,300,000	1,754,850	2,545,150	
山研使用料収入	3,380,000	2,381,160	998,840	
事業収入計	9,800,000	6,585,298	3,214,702	
4.補助金等収入				
補助金収入	0	8,527,743	△ 8,527,743	注)1
5.寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
募金収入	0	0	0	
寄付金収入計	0	0	0	
6.雑収入				
受取利息	700,000	754,731	△ 54,731	
雑収入	500,000	1,345,446	△ 845,446	
雑収入計	1,200,000	2,100,177	△ 900,177	
7.特定預金取崩収入			0	
退職給与引当預金取崩収入	0	4,973,380	△ 4,973,380	
当期収入合計(A)	81,580,000	94,815,131	△ 13,235,131	
前期繰越収支差額	16,234,332	16,234,332	0	
収入合計　(B)	97,814,332	111,049,463	△ 13,235,131	

(注)1「環境事業団：環境基金」助成金　¥3,900,000

2「読売新聞社　ガンカー・プンスム登山隊」助成金 ¥4,627,743

科　　目	予算額	決算額	差　異	備考
Ⅱ．支出の部				
1.事業費				
出版費	10,680,000	11,045,758	365,758	
図書管理費	800,000	634,245	△ 165,755	
調査研究費	3,235,000	11,772,882	△ 8,165,625	
指導費	1,230,000	1,242,963	△ 12,963	
支部関係費	11,000,000	11,315,971	△ 315,971	
海外諸関係費	300,000	235,645	64,355	
山岳研究所運営費	3,800,000	4,346,597	△ 546,597	
海外登山補助費	1,000,000	700,000	300,0000	
その他事業費	5,300,000	4,817,469	△ 482,531	
印刷・製本費	1,000,000	459,557	540,443	
通信運搬費	5,500,000	4,925,682	574,318	
事業費計	43,845,000	51,124,512	△ 7,279,512	
2.運営管理費				
給料・手当	13,770,000	13,238,800	531,200	
文具・消耗品費	250,000	355,238	△ 105,238	
印刷・製本費	2,000,000	895,420	1,104,580	
旅費・交通費	1,700,000	1,903,340	△ 203,340	

2月20日　「ヒマラヤと高度障害について」村井葵氏講演会（高所・青年）　本会

2月24日　「数値図の見方」田代博・小堀昇氏講演会（科学）　本会

(C) シンポジウム

5月23～24日　第18回日本登山医学シンポジウム（医療）　松本

9月19日　火山ガスシンポジウム（科学）　法政大学

9月23日　高山植物の保護と盗掘防止を考える（自然保護）　東京全電通ホール

11月28日　科学的にとらえた中高年登山シンポジウム（科学）　明治大学

3月13～14日　自然保護シンポジウム「富士山の自然を考える」（自然保護）　山梨県忍野村

2．登山施設の運用、その他登山のための適切な事業

＊上高地山岳研究所の運用
＊受入れ資料保管
＊各博物館、美術館との提携強化
＊海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのビデオテープ化による保存

3．山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

4．自然保護活動の推進

＊自然保護委員会による自然保護指導者の養成のための「山の自然学講座」（都内と現地約20日）
＊自然保護委員会会報「木の芽草の芽」隔月刊行
＊ネパール・シバプリにおけるラリグラス植林

5．機関紙等の発行

＊「山岳」第93年（1998）号の発行
＊会報「山」第635～646号の発行

6．国内および外国山岳団体との情報交換

＊国内関係団体（日山協、都岳連、日本ネパール協会、日本ヒマラヤ協会、HAT－J、その他）との密接な連絡
＊海外登山団体との機関紙の交換および情報誌の購入

7．海外登山

＊5月28日～6月20日　第9次マッキンリー気象観測機器設置登山隊派遣（科学研究）
＊3月15日～　カンチェンジュンガ登山隊（青年）
＊10月3日～11月7日　ブータンヒマラヤ登山隊（学生）
＊11月17日～　ガンカー・プンスム偵察隊（高所）
＊11月20～28日　ネパール観光年記念ＪＡＣネパール・トレッキング（参加者124名）

8．表彰事業

＊第1回秩父宮記念山岳賞の授賞（12月）
第1回受賞者　三枝礼子　薬師義美

9．その他目的を達成するために必要な事業

＊新刊図書目録資料調達
＊山岳図書の整備
＊ネパール・ポカラ国際山岳博物館建設資金募金
＊その他

貸借対照表

平成11年３月31日現在

科目	金額		
[1] 資産の部			
1. 流動資産			
現金	208,063		
振替貯金	1,048,487		
普通預金	10,502,614		
定期預金	0		
未収会費	3,824,000		
棚卸資産	2,754,160		
流動資産合計		18,337,324	
2. 固定資産			
基本財産			
貸付信託	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
その他固定資産			
土地	46,297,170		
建物	144,423,000		
什器備品	5,778,232		
敷金	300,000		
秩父宮家ご遺贈金	11,000,000		
図書出版研究基金	5,043,305		
長期計画積立金	44,300,000		
海外登山基金	93,500,000		
終身会費積立金	14,500,000		
退職給与引当預金	3,691,620		
その他固定資産合計	368,833,327		
固定資産合計		376,833,327	
資産合計			395,170,651
[2] 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	265,000		
預り金	215,410		
流動負債合計		480,410	
2. 固定負債			
退職給与引当金	3,691,620		
固定負債合計		3,691,620	
負債合計			4,172,030
[3] 正味財産の部			
正味財産			390,998,621
（うち基本金）			(8,000,000)
（当期正味財産減少額）			(6,137,158)
負債及び正味財産合計			395,170,651

計算書類に対する注記

1．重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。

(2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。

(3) 引当金の計算基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の316%に相当する額を計上している。

(4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記３に記載のとおりである。

通信・運搬費	1,900,000	1,571,168	328,832	
保険料	330,000	299,370	30,630	
修繕費	200,000	336,630	△ 136,630	
租税公課	550,000	632,400	△ 82,400	
光熱水道費	700,000	641,426	58,574	
電話料	450,000	397,376	52,624	
会議費	400,000	255,210	144,790	
什器備品費	300,000	28,329	271,671	
振替手数料	650,000	626,610	23,390	
福利厚生費	280,000	232,888	47,112	
事務所管理費	1,000,000	927,994	27,006	
その他管理費	2,500,000	4,548,688	△ 2,048,688	
負担金	200,000	80,000	120,000	
退職金	0	4,973,380	△ 4,973,380	
賃借料	3,640,000	3,530,000	110,000	
雑費	1,200,000	1,039,625	160,375	
管理費計	32,020,000	36,558,892	△ 4,538,892	
3.固定資産取得支出				
什器備品購入支出	0	0	0	
固定資産取得支出計	0	0	0	
4.特定預金支出				
秩父宮記念賞基金支出		1,000,000	△ 1,000,000	
図書出版研究基金支出	0	63,305	△ 63,305	
長期計画積立金支出	4,000,000	5,000,000	△ 1,000,000	
海外登山基金支出	0	0	0	
終身会費積立金支出	0	1,200,000	△ 1,200,000	
退職給与引当預金支出	0	1,000,000	△ 1,000,000	
特定預金支出計	4,000,000	8,263,305	△ 4,263,305	
5.予備費				
予備費	1,500,000	0	1,500,000	
当期支出合計(C)	81,365,000	95,946,709	△ 14,581,709	
当期収支差額(A)-(C)	215,000	△ 1,131,578	1,346,578	
次期繰越収支差額(B)-(C)	16,449,332	15,102,754	1,346,578	

正味財産増減計算書

平成10年３月31日～11年３月31日

科目	金額		
Ⅰ．増加の部			
1. 資産増加額			
秩父宮記念賞基金	1,000,000		
図書出版研究基金	63,305		
長期計画積立金	5,000,000		
海外登山基金	0		
終身会費積立金	1,200,000		
退職給与引当預金	1,000,000		
棚卸資産	5,431	8,268,736	
2. 負債減少額			
退職給与引当金取崩額	4,973,380	4,973,380	
増加額合計			13,242,116
Ⅱ．減少の部			
1. 資産減少額			
当期収支差額	1,131,578		
退職給与引当預金	4,973,380	6,104,958	
2. 負債増加額			
退職給与引当金繰入額		1,000,000	
減少額合計			7,104,958
当期正味財産減少額			6,137,158
前期繰越正味財産額			384,861,463
期末正味財産合計額			390,998,621

金・あさひ市ヶ谷)			
図書出版研究基金（定期預	5,043,305		
金・あさひ市ヶ谷)			
長期計画積立金（定期預	44,300,000		
金・三菱市ヶ谷)			
海外登山基金（定期預金・	93,500,000		
あさひ市ヶ谷)			
終身会費積立金（定期預	14,500,000		
金・あさひ市ヶ谷)			
退職給与引当預金（定期預	3,691,620		
金・あさひ市ヶ谷)			
その他固定資産合計	368,833,327		
固定資産合計		376,833,327	
資産合計			395,170,651
［2］負債の部			
1．流動負債			
前受会費　（平成9年度会	265,000		
費23名分)			
預り金　職員に対する源泉	215,410		
所得税その他			
流動負債合計		480,410	
2．固定負債			
退職給与引当金	3,691,620		
固定負債合計		3,691,620	
負債合計			4,172,030
正味財産			390,998,621

（注）長期計画積立金の中に山研水力発電施設建設費　¥4,750,000を含む
秩父宮記念賞基金の中に大屋家ご遺贈金　¥300,000を含む

注1）棚卸資産内訳

種類	摘要	金額
刊行物	山岳総索引、山岳覆刻版等	645,010
服飾品・その他	クラブタイ、タイ止等	2,109,150
合計		2,754,160

注2）その他固定資産内訳

1建物及び土地

A　事務所及び図書室	
場所　東京都千代田区四番町5番4	
構造　鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建	
（事務所）区分所有建物1階部分　103.32㎡	
宅地持分　1,124.56㎡×339/10,000	
＝38.122584㎡	
（図書室）区分所有建物1階部分　55.22㎡	
宅地持分　1,124.56㎡×176/10,000	
＝19.792256㎡	
計　158.54㎡　宅地持分　57.91484㎡	¥72,720,170
B　上高地山岳研究所	
場所　長野県南安曇郡安曇村4469番地1	
構造　鉄筋コンクリート造（一部木造）1棟	
274.09㎡	¥118,000,000
合計	¥190,720,170

2什器備品

品名	取得年月日	取得価格	所在
書庫内移動書架一式コンパックル	53. 2. 10	1,500,000	図書室
閲覧用テーブル（木製2台）	53. 9. 28	250,000	〃
ライティングビューロー（木製）	54. 6. 23	280,300	事務所

2．基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期残高
貸付信託（三井信託銀行）	2,380,000	0	0	2,380,000
〃（日本信託銀行）	420,000	0	0	420,000
〃（中央信託銀行）	5,200,000	0	0	5,200,000
合計（基本金）	8,000,000	0	0	8,000,000

3．次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期末残高	備考
現金預金	12,856,162	11,759,164	
未収会費	3,984,000	3,824,000	
合計	16,840,162	15,583,164	
前受会費	260,000	265,000	
預り金	345,830	215,410	
合計	605,830	480,410	
次期繰越収支差額	16,234,332	15,102,754	

4．固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建物	144,423,000	0	144,423,000
什器備品	5,778,232	0	5,778,232
合計	150,201,232	0	150,201,232

財産目録

平成11年3月31日

科目	金額		
［1］資産の部			
1．流動資産			
現金預金			
現金　現金手許有高	208,063		
振替預金			
東京地方貯金局	1,048,487		
普通預金			
あさひ銀行市ヶ谷支店	6,209,525		
三菱銀行市ヶ谷支店	4,072,269		
中央信託銀行本店	141,146		
三井信託銀行新宿西口支店	59,898		
日本信託銀行本店	19,776		
定期預金			
あさひ銀行市ヶ谷支店	0		
未収会費　315名分	3,824,000		
棚卸資産　注1）	2,754,160		
流動資産合計		18,337,324	
2．固定資産			
(1)基本財産			
貸付信託			
三井信託銀行本店	2,380,000		
日本信託銀行本店	420,000		
中央信託銀行本店	5,200,000		
基本財産合計	8,000,000		
(2)その他固定資産　注2）			
土地　57.91484㎡	46,297,170		
建物　432.63㎡	144,423,000		
什器・備品	5,778,232		
敷金	300,000		
秩父宮記念賞基金（定期預	11,000,000		

2．図書

種　類	摘　要	冊　数
和　書	平成10年度受入冊数　３０１冊	９９３０冊
洋　書	平成10年度受入冊数　１５１冊	３４８５冊

3．フィルム・ビデオ

フィルム	１５点　「マナスルに立つ」他
ビデオ	１９５本

社団法人日本山岳会　平成10年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、及び財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成11年４月13日

社団法人　日本山岳会　　監事　石橋正美

監事　神崎忠男

監事監査報告

平成11年４月13日に行った平成10年度下期（平成10年10月１日～３月31日）に於ける会計の監査ならびに期中の業務監査の結果を次の通り報告する。

記

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧等、必要と思われる手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。

業務監査については、理事会等に出席し、業務執行の妥当性を検討した。

監査意見は次の通り。

(1) 現金については、監査日当日現在の残高と、帳簿の金額は一致し、正しく出納されているものと認める。

(2) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は、本会の収支状況及び財政状態を正しく示しているものと認める。

(3) 特定預金のうち、秩父宮家ご遺贈金及び海外登山基金については、その充実を計るよう配慮されたい。

(4) 事業報告の内容は、真実であると認める。

(5) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令、定款に違反する重大な事実はないと認める。

以　上

フィルム収納キャビネット（スチール製品）	56. 8. 8	254,000	事務所
図書カード容器（木製３段）	56. 9. 12	200,000	図書室
書棚（木製２段）	56. 12. 22	500,000	〃
16mm　映写機16-CL（MO）	61. 5. 13	156,000	事務所
木製書架ガラス戸付（２台）	62. 9. 24	700,000	図書室
シャープ液晶ビジョン一式	2. 7. 19	587,932	事務所
世界対応　ＶＴＲ001 NWV	4. 5. 11	250,000	〃
小型気象ファクシミリ　JAX-9	4. 10. 19	320,000	〃
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H	5. 3. 20	250,000	山研
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35	5. 3. 20	280,000	〃
ナショナルＢＳ付ビデオ HV-BS50S	5. 3. 20	250,000	〃
合　計		5,778,232	

財産目録記載外のその他物品リスト（主として受贈品）

1．絵画

題　名	種類・号数	作者名	掲載、保管場所
白馬岳	油Ａ－５０	中村清太郎	大町山岳博物館
富士山麓	油Ａ－２５	茨木猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形６	中村清太郎	本　会
群猿	墨　絵	石井鶴三	本　会
針の木峠より	油－１０	茨木猪之吉	本　会
伊豆半島	油－１０	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
徳本峠から穂高連峰	墨　絵	石田吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油－１０	茨木猪之吉	本　会
鳥（カットの原画）	墨　絵	石井鶴三	本　会
メールドグラス	エッチング		本　会
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	シュラー・ギントワイト	本　会
ユングフラウ	油	山里寿男	伯耆国山岳美術館
涸沢より北穂高	水彩－６	山里寿男	松本アルプス山岳館
槍ヶ岳初夏	油－１０	中村清太郎	本　会
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	本　会
北穂高滝谷	油－２５	足立源一郎	本　会
或朝の槍ヶ岳	油－２５	足立源一郎	伯耆国山岳美術館
北穂高主峰	油－２５	足立源一郎	本　会
槍ヶ岳	油－Ｐ８	足立源一郎	本　会
タンボチェの僧院	水彩－４	清野恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩－４	清野恒	松本アルプス山岳館
冬の山（清太山）	墨　絵	近藤茂吉	松本アルプス山岳館
梓川秋色	油－１２	後藤三男	本　会
早朝の上高地山研	版画－８	松田敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩－１０	松田敏男	上高地山岳研究所
焼岳秋趣	版画－８	鈴木正俊	伯耆国山岳美術館
ナムチャバルワ峰暮色	油－１０	神原忠夫	伯耆国山岳美術館
白馬雪田	日本画	丸山晩霞	本　会
上高地秋景	油－Ｆ２０	後藤三男	上高地山岳研究所
マチャプチャレ	油－２０	武井清	本　会
朝霧	水彩－８	越智英夫	本　会
白樺の林	油－６	茨木猪之吉	本　会
麓春	油－Ｐ５０	倉員辰雄	本　会
ヒマラヤダージリンにて	油－Ｆ４	上野春香	伯耆国山岳美術館

＊他の絵画、写真　省略

＊会員名簿発行（総務）　12月
＊支部長会議（総務）　12月4日
＊年次晩餐会（総務）　12月4日
＊海外登山報告（青年部）　12月
＊全国山岳博物館連絡会議（資料）　12月5日頃
＊総務委員会ウインターセミナー（総務）　1月8～9日
＊スキー懇親山行（集会）　志賀高原　1月15～16日
＊アイスクライミング研修会（指導・遭難対策・学生・青年部）　1月29～31日
＊青年部ＯＢ現役懇親会（青年部）　1月
＊全国支部事務局担当者会議（総務）　2月26～27日
＊第28回山岳史懇談会（図書）　2月
＊マッキンリー報告会（科学）　2月
＊雪崩ビーコンゾンデ講習会（学生）　2月
＊春季新入会員オリエンテーション（総務）　3月18日
＊山岳スキー講習会（指導）　3月中旬
＊第24回図書交換会（図書）　未定
＊会報「山」図書紹介（図書）　通年
＊山岳図書新刊目録の作成（図書）　通年
＊16ミリフィルム→ＶＨＳテープ交換（フィルムビデオ）　通年
＊冠松次郎氏、写真の現像（フィルムビデオ）　通年
＊「高山植物」研究（自然保護）　通年
＊山の自然学講座（自然保護）　通年
＊し尿処理問題の事前調査（自然保護）　通年
＊百年史編集企画（百年史）　通年
＊山岳博物館巡回作業と資産管理（資料）　通年
＊上高地山岳研究所展示室常設展（資料）　通年
＊資料の収集・分類・保管・調査研究作業（資料）　通年
＊インターネットホームページ（データバンク）　通年

(B) 研究会
＊海外登山研究会（学生）　6月
＊高所登山研究（高所）　6月
＊高所登山研究（高所）　9月
＊海外登山研究会（青年）　11月
＊冬山登山研究会（学生）　12月
＊医療委員会研究会（医療）　2月
＊「インドヒマラヤ」研究会（高所）　2月

(C) 講演会、シンポジウム
＊第19回日本登山医学シンポジウム（医療）　5月21～22日
＊講演会「山野井泰史夫妻」（青年部）　9月
＊講演会「ヒマラヤ登山を語る」（高所）　10月
＊シンポジウム「登山装備の最新動向」（科学）　11月
＊講演会「ヒマラヤ登山を語る」（高所）　11月
＊自然保護シンポジウム（自然保護）　3月
＊講演会「ヒマラヤ登山を語る」（高所）　3月

2．登山施設の運用、その他登山のための適切な事業
＊上高地山岳研究所の運用、資料室開設
＊受入れ資料保管
＊各博物館、美術館との提携強化
＊海外遠征の記録、会合、行事等の記録的フィルムのビデオテープ化による保存

3．山岳遭難の予防とその対策に関する企画及び指導
＊各レスキュー隊等との懇談・研修

（社）日本山岳会平成11年度事業計画書

1999. 4. 1～2000. 3. 31

1．登山の指導と奨励に必要な集会、研究会、講習会及び展覧会の開催

(A) 集会
＊山岳スキー研修会（指導）　4月10～12日
＊フィールドノート（自然保護）　4月
＊雪上総合技術研修会（指導、遭難対策）　5月1～5日
＊支部長会議（総務）　5月15日
＊通常総会（総務）　5月15日
＊第6回古道を歩く（図書）　5月
＊委員会技術研修登山（集会）　5月初旬
＊若葉会山行・会津（集会）　5月22～23日
＊第2回国際山岳救助・医療技術研究セミナー（医療）　5月22～23日
＊ウエストン特別展（山研・資料）　5月17日～6月19日
＊焼岳登山とウエストン祭（山研）　6月5～6日
＊岩登り講習会（指導・青年）　谷川岳　6月12～13日
＊委員会・同好会・同期会連絡会議（総務）　6月25日
＊第10次マッキンリー気象観測機器設置登山隊派遣（科学）　6月
＊白神山地「体験造林業」調査（自然保護）　6月中旬
＊自然観察山行（自然保護）　関東周辺　6月中旬
＊小川山集会、岩登り研修（学生部）　6月
＊中高年登山講座（集会）　6月中旬
＊探索山行「火山ガスの危険を現地に学ぶ」安達太良山（科学）　6月12～13日
＊山岳写真展（山研・フィルムビデオ）　6月中旬～8月
＊総務委員会サマーセミナー（総務）　7月
＊全国山岳遭難対策協議会参加（遭難対策）　7月
＊鳥海山調査報告書増補版（自然保護）　7～8月
＊講演学習会「高層気象」（科学）　7月
＊ＯＢ懇親会（青年部）　7月中旬
＊名誉会員を囲む会（総務）　8月5日
＊新理事・役員夏期研修会（総務）　8月
＊委員技術研修登山（集会）　8月中旬
＊第8回山を語る（図書）　9月
＊日中学生合同登山（学生部）　9月
＊ビデオ及び写真撮影会（フィルムビデオ）　上高地　9月
＊自然保護全国集会（自然保護）宮城支部主管　9月
＊山のスケッチ展（山研・スケッチクラブ）　9月上旬～10月中旬
＊プチ・オータムコンサート（山研）　9月25～26日
＊全国支部懇談会（総務）　10月16～17日
＊キノコ山行・越後（集会）　10月16～17日
＊岩登り技術研修会（指導・青年・学生・遭難対策）　10月22～24日
＊自然観察山行（自然保護）　仙台周辺　10月中旬
＊全国大学山岳部監督会議（学生・青年）　10月
＊海外登山報告（青年）　10月中旬
＊秋季新入会員オリエンテーション（総務）　11月6日
＊第31回山岳図書を語る夕（図書）　11月
＊初心者のための写真撮影会（フィルムビデオ）　11月
＊中高年の高所登山を考えるセミナー（医療）　11月中旬
＊文部省登山研修所友の会シンポジウム参加（遭難対策）　11月下旬
＊マラソン大会（学生）　11月

6.雑収入				
受取利息	700,000	700,000	0	
雑収入	500,000	500,000	0	
雑収入計	1,200,000	1,200,000	0	
7.特定預金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計（A）	83,350,000	81,580,000	1,770,000	
前期繰越収支差額	15,102,754	16,234,332		
収入合計（B）	98,452,754	97,814,332		

科目	平成11年度予算額	前年度予算額	増減	備考
Ⅱ.支出の部				
1.事業費				
出版費	11,800,000	10,680,000	1,120,000	
図書管理費	600,000	800,000	△ 200,000	
調査研究費	2,965,000	3,235,000	△ 270,000	
指導費	1,220,000	1,230,000	△ 10,000	
支部関係費	12,000,000	11,000,000	1,000,000	
海外諸関係費	300,000	300,00	0	
山岳研究所運営費	4,040,000	3,800,000	240,000	
海外登山補助費	1,000,000	1,000,000	0	
その他事業費	5,000,000	5,300,000	△ 300,000	
印刷・製本費	1,000,000	1,000,000	0	
通信運搬費	5,000,000	5,500,000	△ 500,000	
事業費計	44,925,000	43,845,000	1,080,000	
2.運営管理費				
給料・手当	12,000,000	13,770,000	△ 1,770,000	
文具・消耗品費	250,000	250,000	0	
印刷・製本費	3,000,000	2,000,000	1,000,000	
旅費・交通費	1,500,000	1,700,000	△ 200,000	
通信・運搬費	2,000,000	1,900,000	100,000	
保険料	300,000	330,000	△ 30,000	
修繕費	300,000	200,000	100,000	
租税公課	550,000	550,000	0	
光熱水道費	700,000	700,000	0	
電話料	400,000	450,000	△ 50,000	
会議費	350,000	400,000	△ 50,000	
什器備品費	300,000	300,000	0	
振替手数料	650,000	650,000	0	
福利厚生費	280,000	280,000	0	
事務所管理費	1,000,000	1,000,000	0	
その他管理費	3,800,000	2,500,000	1,300,000	
負担金	150,000	200,000	△ 50,000	
賃借料	3,240,00	3,640,000	△ 400,000	
雑費	1,000,000	1,200,000	△ 200,000	
管理費計	31,770,000	32,020,000	△ 250,000	
3.固定資産取得支出				
什器備品購入支出	0	0	0	
固定資産取得支出	0	0	0	
4.特定預金支出				
長期計画積立金支出	4,000,000	4,000,000	0	
退職給与引当預金支出	1,000,000	0	1,000,000	
特定預金支出	5,000,000	4,000,000	1,000,000	
5.予備費				
予備費	1,500,000	1,500,000	0	
当期支出合計（C）	83,195,000	81,365,000	1,830,000	
当期収支差額(A)-(C)	155,000	215,000	△ 60,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	15,257,754	15,035,000		

4．自然保護活動の推進
＊自然保護活動のミニコミ紙発行
＊山の自然保護指導者の養成（山の自然学講座20回）
＊上高地におけるインタープリター作業
＊ネパール・シバプリにおけるラリグラス植林

5．機関紙等の発行
＊「山岳」第94年（1999）号の発行
＊会報「山」第647～658号の発行
＊インターネットホームページの開設

6．国内及び外国山岳団体との情報交換
＊国内関係団体（日本山岳協会、東京都山岳連盟、日本勤労者山岳連盟、ＨＡＴ－Ｊ、日本ヒマラヤ協会、その他）との連絡
＊海外登山団体との機関紙の交換及び情報誌の購入

7．海外登山
＊第10次マッキンリー気象観測機器設置登山（科学）　6月

8．表彰事業
＊秩父宮記念山岳賞　12月

9．その他目的を達成するために必要な事業
＊山岳図書の整備
＊山研ミニ水力発電設置（ミニ水力発電実行委員会）　4月
＊その他

平成11年度収支予算書（案）

平成11年4月1日から平成12年3月31日まで

科目	平成11年度予算額	前年度予算額	増減	備考
Ⅰ.収入の部				
1.基本財産運用収入				
基本財産利息収入	80,000	80,000	0	
2.会費・入会金収入				
入会金収入	5,000,000	5,000,000	0	
通常会費収入	66,000,000	65,500,000	500,000	
終身会費収入	0	0	0	
会費・入会金収入計	71,000,000	70,500,000	500,000	
3.事業収入				
広告料収入	3,000,000	1,900,000	1,100,000	
印税収入	20,000	20,000	0	
刊行物頒布収入	200,000	200,000	0	
その他事業収入	4,300,000	4,300,000	0	
山研使用料収入	3,550,000	3,380,000	170,000	
事業収入計	11,070,000	9,800,000	1,270,000	
4.補助金等収入				
補助金収入	0	0	0	
5.寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	

海外の山

中国人の七大洲最高峰登頂

江本嘉伸

六月二十六日付け「瀋陽日報」は「征服世界七大洲最高峰的中国人」の大きな見出しで、中国人としてはじめて二人の登山家が「七大洲最高峰」に立ったことを伝えた。六月二十三日、「ジャヤ峰（五〇三〇メートル）」に登頂し、「十年がかりの偉業」を達成した、という。

この「勇士」は、李致新（三七）と王勇峰（三六）の二人。壮挙は無論全中国に報道されたが、東北三省（つまり旧満州）の中心である瀋陽で発行されている「瀋陽日報」がとりわけ大きく扱ったのは、中国登山協会副主席でもある李が、同じ東北の大連出身であるためだろう。なお、王は、内蒙古出身の登山家である。

カルステンツ・ピラミッド　撮影 北村節子

六月十二日北京を出発した二人は、インドネシア登山協会の協力で二十一日に四千メートル地点にキャンプを張り、二十三日、岩壁の難しい登攀をこなし、頂上に達した。

李にとっては、一九八八年の日本、中国、ネパール三国合同登山に参加してチョモランマに登頂したことがスタートだった。五月五日、縦走隊のサポート役として日本隊の山本宗彦、ネパール隊のラクパ・ソナと頂上に立ったのだ。漢族としては唯一人の登頂だった。

王もこの合同登山に参加していたが、登頂メンバーとはならず、頂上に立ったのは五年後の九三年五月五日である。曾曙生（現中国登山協会主席）が隊長をつとめた中国・台湾合同隊（「海峡両岸登山隊」といった）で、四人のチベット人隊員、ひとりの台湾隊員とともに登頂を果たした。この時はチベット隊員が先に下山してしまい、ルートを見失った王と台湾人隊員は一時は行方不明になって大本営を心配させたが、北アイルランド隊のテントに避難して事無きを得た。

以後、南極洲のビンソンマシフ、北米洲のマッキンリー、南米洲のアコンカグア、欧州のエリブルース、アフリカ洲のキリマンジャロと登りつづけ、今回の大洋洲最高峰登頂でしめくくった。

登った山の名を中国の報道では、「ジャヤ峰」といっているが、正しくはジャヤ山群の最高峰、カルステンツ・ピラミッド（ジャヤクスマ峰とも）のことであろう。ジャヤは「大きい」という意味のインドネシア語で、単にジャヤ峰というと、最高峰ではない「ンガプルー峰」のことをさす場合が多い。

いま時「七大陸最高峰」そのものは珍しくもないが、中国の登山家がやったことは、エヴェレスト最年少記録をめざしたネパールの十五歳の少年の挑戦とともに時代を象徴する出来事だと思う。山を持つ国の民が、いよいよ山々を外来の客たちのためだけでなく、自分自身を輝かせる場ととらえはじめたという点で。

「マロリー発見」の報が世界を驚かせた五月はじめから中旬にかけてネパールの「The Rising Nepal」紙や「The Kathmandu Post」紙は、〝アーヴィンの壮挙〟を何度も大きく取り上げた。

アーヴィンといっても、マロリーとともに行方を絶ったアンドルー・アーヴィンではない。アーヴィン・ティミルシナ。ポカラに住む十五歳の少年でなんと「史上最年少登頂」をめざしてエヴェレストに向かったのである。（従来の記録は十七歳）

結果は、頂上まで「あと九八メートル」というところでギブアップした。目がかすんだため、とされるが、一部ではアーヴィンがシェルパ族だったら、必ず頂上まで押し上げられただろう、とささやかれた。少年は、ネパールで指導的な役割を果たしているチェトリ族で、シェルパの協力が不可欠な高所では、そのことが裏目に出たのでは、という勘ぐりである。

ところで、中国の二人が登ったのが「七大洲最高峰」と表記されていることに注目したい。世界のすう勢は「七大陸最高峰」といっても、あまりにも手軽なオーストラリア大陸の最高峰コシウスコ（二二三〇メートル）を除き、オセアニアの最高峰カルステンツ・ピラミッドを含めることが断然多い。「七大洲」という言葉は、その現実をしっかり取りこんでいると思う。

報告 REPORT 7月

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です。

フォトビデオクラブ――

ギリシャ・アテネ市で写真展

今年は、日本・ギリシャ修好百年目にあたり、これを機に外務省では文化交流をより活発に行うという企画が進められてきました。

同好会・アルペンフォトビデオクラブでは、この企画に協力し、去る五月二十七日より三十日までアテネ市「市立文化センター」で山岳写真展を開催し、日本の素晴らしい山岳美を紹介しました。

アテネの市民文化センターで開催された山岳写真展

大理石の敷き詰められた白い壁面の豪華な会場に、会員の撮った作品、三十四点を展示。オープニング当日には、ギリシャ共和国・松本和朗大使をはじめ、領事館、アテネ市関係者、また多くの在ギ日本人の方々も来場され、四季の移ろいの中にはぐくまれた日本の山岳美に改めて感動されたようでした。また各方面から絶大な賛美の言葉をいただきました。

写真展は、日本の山岳自然を紹介するとともに、日本山岳会の文化活動をも知っていただくよき機会となりました。

なお別室会場にはスケッチクラブの作品、領事館地下会場では折り紙や書画なども展示され、日・ギ修好百年にちなむ民間ベースによる文化交流に多くの成果をもたらしました。

（羽田栄治）

PC導入検討委員会――

俗字などについて

現在本会では、コンピューターの二〇〇〇年問題に対応すべく、本会の会員管理・会費管理、公益法人会計処理の各システムを、旧APCSのOSから、ウインドウズに対応するシステムに本年八月を目途に、移行しつつあります。

ご承知のように、本会が一九八五年に導入したこれら各システムは、当時、富士通、パナファコム、PFUの三社が協同で開発したわが国独自のAPCSというOSで、十六年間運用してまいりましたが、このOSが二〇〇〇年問題をクリアできなくなったために一昨年来、PC導入検討委員会を設けて、旧システムからウインドウズ上で動くOSへの変換を検討してまいりました。

その結果、会員・会費管理は当会のオリジナル・ソフトであるプログラムを翻訳・変換することにしましたが、公益法人会計は、アプリケーションのソフトを採用することにし、これら各システム間のデータの受け渡しで処理することにして、目下作業中であります。

つきましては、次の点につき問題が生じておりますので、会員各位のご理解・ご協力をお願いする次第です。

一、会員管理のデータ・ベース上での漢字の問題

従来のシステムでは、難解な漢字については、外字で対応するなどして、極力会員各位の希望による戸籍上の漢字で対応してまいりましたが、今後はウインドウズ上でのデータ変換のつど、文字化けなどを生ずるおそれがありますので、原則として、JIS第一水準、JIS第二水準以外の漢字は使用しないようにします。

遙かなりエヴェレスト
―マロリー追想―
島田　巽 著
重版出来!

75年ぶりにマロリーの遺体発見さる！
若きアルピニスト・マロリーのありのままの姿と“謎”を追い求めた好著。人々との出会いを通して描く。
四六判・294頁　本体1,800円
大修館書店　〒101-8466東京都千代田区神田錦町3-24　電話03-3295-6231

したがって、ＪＩＳにない俗字で表示していた漢字は、すべて正字に変更になります。

（例）　崎　→　崎
　　吉　→　吉
　　高　→　高

なおＪＩＳの漢字（含補助漢字）にない漢字で、他に類字や当て字がない場合、例えば徑、繩、脊、活……等については、個別に相談してどうするか決めたいと存じますのでご協力をお願いします。なおアジア諸国中、漢字圏の国の方々については、新旧漢字などありますので、個別に対応させていただきます。

二、町名表示について

新システムでは、郵政省が発行する〒番号辞書を使用しますので、従来、○○駅前などの表示で届いていた場合でも、この〒番号辞書による下四桁の町名表示に自動的に変換されるケースも生ずるかもしれませんが、あらかじめご了承ください。

三、電話番号等

新システムのＤＢでは自宅の電話番号、ＦＡＸ番号、E-mail Address、勤務先の電話番号の他に携帯電話番号欄をもっています。しかしメンテナンスが十分にできないと意味ありません。従来も転居通知はあっても、電話番号の変更まで通知してこないケースが多く、「会員名簿」編集の際には苦労させられました。この点についてのご協力もよろしくお願いします。（**松田雄一**）

三水会

海外山行・1
韓国・智異山（チリサン）

昨年の雪岳山に続き、本年は智異山を選んだ。

智異山は半島の脊梁山脈である太白山（テベク）脈が、太白山より西南へ分岐して小白山（ソベク）脈を形成し、秋風嶺の隆起となって南下し、閑麗（ハルリョ）水道へ没しようとするところまで迫った一大山域である。国立公園第一号に指定され、最高峰は東端にある天王峰（チョナンボン）（一九一五メートル）である。

五月の連休に登る計画を立てたが、山火事予防のため登山禁止中で、予定を再三変更させられた。山上で一泊する計画である。

五月二十日（木）　ＪＬ九五七便で成田発。釜山から入国し、釜山駅前のホテルに宿泊。燃料、食糧を購入する。

五月二十一日（金）　チャーターしたバスで北面登山口の馬川面白武洞（マチョンミョンベンムドン）へ行く。高速道が晋州から咸陽の近くまで延びており、便利になった。アドバイスをお願いした山岳同好会明智会の二名の方に会い、総勢十九名で出発した。

登山道は渓谷道に続き、樹林の中の尾根道となり、標高差一五〇〇メートルの登りをかなり登ってから、開花したサンチョルチュクが現れた。登るほどカタクリが増え、群落も見られた。

宿泊予定のチャントモク山荘は帝釈峰（チェソクポン）（一八〇六メートル）直下の鞍部にあり、新築して大きくなっていたが、明日は灌仏会（花祭り）のため休日で連休となり、混雑していた。ヘリの作業で夕食も変形になった。

二十二日（土）　午前三時ごろから若者が起き出して山荘が騒がしくなり、四時半には日の出を見るため多数の者が天王峰へと登りに行った。

快晴の智異山頂上で記念撮影

わがパーティーからも登った人がいた。

六時に出発し、帝釈峰を経て天王峰へ登る。下山してくる人が多く、予定通り歩けない。七時三十分、混み合う山頂に着いた。晴天で展望がよく、遠くの山並みが絵のように美しい。記念写真を撮って、山清郡矢川（サンチョングンシチョン）面の中山里（チュンサンリ）に向かって下降する。登ってくる登山者の切れ目も次第になくなってくる。標高一三〇〇メートルにある法界寺（ポプケサ）では提灯が連なり、境内が賑わっている。食物もいただいた。登ってくる人がますます増え、ハルモニまでいる。下山に時間がかかり、予定を三時間以上オーバーしてしまった。中山里の駐車場も満車である。

昨日と同じバスで釜山へ向かう。全員無事に下山し、二十四日（月）にソウルで明智会の方に感謝の会を催し、二十五日（火）に帰国した。

（**石田稔郎**）

海外山行・2
台湾・玉山

四月二十八日～五月三日に有志で台湾に行った。

一日目は、台北から登山拠点の阿里山まで高速道路を突っ走り、ほぼ二〇〇キロを南下した。

二日目、台湾式準備体操ののち登

山口を八時スタート。しばらく車道が続いて、本格的登山口に到着。標高二六〇〇メートル。ここから山道となる。

次第に針葉樹林帯になっていく。白木林という地点のレストハウスで昼食。立ち枯れた木が白く林立しているので、そういう地名になったという。排雲山荘まで、レストハウスはここと孟録亭だけ。急登となり桟道が続く。木橋は新しく堅牢である。あたりは石楠花のオンパレード。白い花がいまを盛りと咲き匂う。

大峭壁に着いた。文字通り、巨大な一枚岩が山腹にへばりついている。巨大岩に幾何学模様があり、雨に濡れて光っている。説明版の漢字をなぞらえると、海岸にあった岩が褶曲しながら隆起してできたと理解できる。幾何学模様は波痕とか。二時半に排雲山荘に到着。標高三四〇〇メートル。約八十人が宿泊できるという。超満員というわけではなく、比較的ゆったりと布団を確保できた。

三日目未明、雨のなかの行動開始。ランプを頼りに歩を進める。ジグザクを繰り返し着実に高度をかせぐ。五〇〇メートルごとの道標に勇気づけられる。次第に明るんできた。ランプを閉じる。ガレ場になり、登山道は鉄柵で保護されるようになった。最後は直登。日の出が素晴らしいというが、望むべくもない。

ついに頂上。山荘から約二時間である。標高三九五二公尺とある。主峰を中心にして東西南北に支峰があり、ガスの切れ目のなか、それらがそれぞれの方向に姿を見せた。三角点は、かつて日本が設置したものだという。早々と記念写真と万歳三唱を済ませ頂上を後にした。あとは一気に下山、ちょうど正午に登山口に帰還した。

帰途、台北で山岳協會を訪問し、多大な感謝を表明。黄理事長から「玉山登頂の証」をいただいた。協會は、台北の主要道路・中山北路に面した大楼の十階にある。ルームの広いのに驚いた。参加人員十二人

（高橋重之）

92同期会・第八回山行――八ヶ岳

ひざまで潜る雪山は敬遠してきたメンバーも、山里の樹々の梢を薫風が吹き抜け、融雪が沢筋の苔を潤す季節になると、無意識のうちに山のニュースに目をそばだたせ、山靴に紐を通す機会を心待ちにするようになるものです。仲間同士の便りの交換にも浮き浮きした気持ちが自然にあふれ、再会を待ちわびるようになりました。

第八回92ＪＡＣ懇親山行はメンバー間の頻繁な連絡の取り合いの末に実施の運びとなりました。

機関紙「山」の図書紹介でもおなじみのスーパーレディー渡邊玉枝さん、富士山登頂三百二十余回の大貫金吾さん、その他総勢十三名が去る五月二十二日、八ヶ岳の渋の湯経由黒百合ヒュッテに宿泊し、翌二十三日残雪豊富な天狗岳に登り、唐沢鉱泉を経て帰京する一般コースを選択しました。

過去数回の山行はいずれも悪天候に泣かされましたが、今回はこれまでの憂さを吹き飛ばす素晴らしい快晴に恵まれ、参加者一同幸運を大いに喜び合いました。

黒百合ヒュッテではご主人の米川正利さんが大歓迎で私たちを出迎え、夜は絶品の山菜料理でもてなしてくれました。それぞれが思い思いの持参品と、取っておきの話をザックに詰めてきたのもいつものことで、アルコールが回るにつれてスケッチの個展のこと、ヒマラヤ登山のこと、最近の登山マナーのこと、昼間聞いた鳥の鳴き声のことなど、さまざまな話題が飛び出し、話が尽きることがありません。

熟年組の登山者グループの多くの例にもれず、山行はあせらず急がずのペースに終始しましたが、山の生きもの、高山植物、足元に転がる石など目に触れるもの、耳に入るものすべてに興味を示し、またこれはと思う場所にさしかかると写真撮影やスケッチのため足を止め、自然との出合いを心ゆくまで堪能する、いわゆる大人の山行となりました。

（召田俊雄）

今年もさんけんで会いましょう

ヒマラヤ・トレッキング特設説明会　入場無料

ネパール・ヒマラヤの魅力とトレッキングの実際を説明します。

	期日と開催時間《全会場 18：30～20：30》	会　場
東京	・8/3(火)・9/9(木)・9/28(火)	退職金機構（旧中退金）ビル8Fホール（地下鉄御成門駅下車。芝パークホテル並び）
大阪	・7/28(水)・9/9(木)・9/21(火)	大阪科学技術センター403号室（地下鉄四ツ橋線本町下車。靭公園北側）
名古屋	・8/6(金)・9/7(火)・9/21(火)	名古屋国際センター第3研修室（地下鉄桜通線国際センター駅下車。桜通沿）
福岡	・7/26(月)・9/7(火)・9/20(月)	アクロス福岡6F会議室（地下鉄天神駅16番出口すぐ）
札幌	・9/10(金)	りんゆうホール（東区北9東2）

運輸大臣登録一般旅行業490号／日本旅行業協会正会員

アルパイン ツアーサービス 株式会社

〒105-0003 港区西新橋1-12-1（西新橋1森ビル） TEL.03-3503-1911

大阪☎06(6444)3033　名古屋☎052(581)3211　福岡☎092(715)1557

JAC 支部だより

全国各地の支部から，独自の活動状況をリポートします。

秋田支部

創立四十周年記念山行 ―第一弾― モッコ岳

当秋田支部は、本年六月をもって創立四十周年を迎える。その記念行事の第一弾として、五万分の一地図上に記名のある秋田県関係・第四十番目に高い山として、秋田・岩手県境に位置するモッコ岳（一二七八メートル）を選び、四月十八日に実施した。

この山は、岩手県の沢内村側からの夏道があるが、県境上の沢尻岳（一二六〇メートル）までであり、一部廃道になっている。今回は藪を嫌って容易に登れる残雪の豊富なこの時期を選んだ。

早朝の四時三十分に秋田市を出発。最奥の大木原集落より残雪を踏み、奥の牧場より沢尻岳へ延びるブナ林の美しい稜線を登る。終始モッコ岳を眺めながらの気持ちのよい登行だ。沢尻岳直下をトラバース、モッコ岳への主稜線は眺望を遮るものなく、隣接する朝日岳や志度内岳を眺めながらの素晴らしいコースである。

最後の急登を登りきって、十二時四十分モッコ岳山頂に到着。二等三角点を囲んで、快晴、三六〇度のパノラマを肴にさっそく小宴を開き、創立四十周年を祝った。

筆者はあまりの好天に惑わされ、酔いの回ったメンバーに見送られて朝日岳へ直行。県内の代表的な秘境の雄大な眺めを独り占めにした後、メンバーの後を追った。健脚向きのコースであった。参加者六名。

（佐々木民秀）

岐阜支部

支部総会と七洞岳登山

四月十七、十八日、三重県庚会郡大宮町サイクリング・ターミナルにおいて、小倉茂暉副会長をお招きして、平成十一年度岐阜支部総会と、七洞岳（七七八・三メートル）登山を、会員、会友三十一名が参加して開催した。

高木碕男支部長から「十月十六、十七日に、第十六回日本山岳会全国支部懇談会を、岐阜支部が主管になって、大垣フォーラムにおいて開催する。十七日には、養老町の養老山（八五九・二メートル）へ懇親登山を行う。岐阜支部会員は総出で全国の会員を招こう。そして成功させよう」と挨拶があった。続いて議事に入り、平成十一年度事業計画など七議案を原案どおり可決し、承認した。

懇親会に入り、小倉副会長からお祝いの言葉をいただき、全員の自己紹介のあと、ご馳走とお酒をいただいて、よもやま話と山の唄で大いに盛り上がって懇親を深めた。

全員が寝静まったころから雨が降り出し、翌朝まで降り続いていた。降雨のため、登山希望者十九名が七洞岳へ向かって（他の会員はお伊勢参り）野原新田コースから傘をさして登った。登山道に取りつき、避難小屋から谷を渡って、ヒノキの植林帯を登った。尾根に出るとなだらかになり、やがて展望台に着いた。頂上近くになると雑木に混じってユズリハ、アセビ、ツツジなどが、地面にはカタクリ、ヒトリシズカ、スミレなどの花が美しく咲いていた。一等三角点の頂上へ十一時に立った。村田正春リーダーの音頭で万歳を三唱し、ビールで乾杯。

景色が全く見られなかったことは残念であったが、これはこれで、また、忘れ難い思い出に残る山行であった。

（藤田純江）

中国

タクラマカン砂漠縦断

高木碕男隊長以下十六名は、四月二十四日から五月七日にかけて、中国西北部世界第二位のタクラマカン砂漠を専用車で、南から北へ約七〇〇キロメートル（砂漠公路五二三キロ）を十一時間かけて縦断した。

一行は、四月二十四日名古屋空港を発ち、上海を経てウルムチへ着いた。翌日ウルムチから東へ一一〇キロ、天山山脈の東方、天池（一九一〇メートル）を探訪した。好天に恵まれ、湖面は氷に閉ざされていたが、

523kmのタクラマカン砂漠縦断公路

短歌

人通わねば

大橋克也

蜘蛛の巣を素肌にからめ登る径白き真空は蒼味帯びくる

白みゆく山路に張りし蜘蛛の巣は露をまといてわれを咎むる

男と女との吊尾根未だ果し得ず目指せし青き齢おもういま

峰深く人通わねば岐け入りき彼も吾れもただ青さのままに

塩辛き汗はしたたり頂は近く迫れど敢えて教えず

毛細管は登る喘ぎの膨みを易くは透さじ岩にもたれき

イラスト・宇都木慎一

前方にはボゴダ峰（五四四五メートル）の全容を眺望することができた。

いったんウルムチへ帰り、夜間にカシュガル行きの便に乗る予定でいたが、カシュガル飛行場が黄砂がひどく着陸できないので、ウルムチで一泊するところを三泊も余儀なくされてしまい、四日目の午前、ようやくにしてカシュガルに着いた。

さっそく待機していた専用車でカシュガルの南西約一九〇キロ、パミール高原のカラクリ湖（三五〇〇メートル）を探訪し、ムスターグ・アタ峰（七四四五メートル）を眺望。

カシュガルからはホータンを経由して、八日目にしてシルクロードの西域南路のオアシス、ニヤへ夕方に着いた。ニヤは年間平均降雨量が一二〇ミリほど、日数も十五日間（聞き取り調べ）と少なく、大地は乾ききっていて、ホテルの庭は黄砂が舞い上がっていた。電気も夜間制限されていて、朝の出発準備はローソクの明かりで身支度。六時三十分起床し、八時にホテルを出発した。今日も黄砂による砂嵐りで太陽を見ることは一日中できなかった。

ニヤから砂漠公路へ入り、西域北路のビュグルを経て、クチャまでの約七〇〇キロを走るのが今日の行程である。

この砂漠公路は、タクラマカン砂漠のほぼ中央で、一九八六年から石油の掘削がはじめられ、その原油運搬道路として南北五二三キロ、幅員一四メートル、二車線の舗装道路が一九九六年から共用開始された道路である。

ニヤなどオアシスと砂漠との間には、胡楊（コヨウ）、亦楊（タマリスク）、ラクダ草などが点々と分布し、遠くに羊、ラクダなどが放牧されていた。

海抜約一〇〇〇メートルの砂漠の中を、時速九〇キロ前後のスピードで走った。気温は三〇度を超していたが、湿度が少ないせいか体感温度は快適であった。

石油が汲み上げられている砂漠のほぼ中央点、ニヤボンの飲食店で皿うどんの昼食。皿にうどんを盛りつけ、にら、にんにくの芽などの野菜を、塩、コショウ、唐芥子で味付けして炒めた具がたっぷりとかけてあり、見かけより美味しかった。

こうして砂漠の中央で腹ごしらえをし、午後もひたすら荒涼とした砂漠を北進、西域北路のオアシス・クチャへ十九時、十一時間かけて無事到着した。

今回の砂漠縦断という所期の目的を達成して帰途につき、コルラ、トルファンなどで主に遺跡を観光し、上海から五月七日帰国した。

（清水芳彦）

●新ハイキング選書●

藤井寿夫著

中央線の山を歩く

A5判・286頁・定価1680円（税込）

中央線の山を歩いて50年、中央線の山107座の紀行と案内。朝立ち、日帰りの範囲内、あまり登山者の歩かれていない山に重点を置いている。読物としても楽しい。　最新刊　増刊出来

●新ハイキング選書●

山旅素描

足立真一郎画伯著　山岳画家の第一人者

A5変型判　上製本　定価1835円（税込）好評三刷発売中

思索は人生を一層豊かに楽しくする。私の山歩きは、その都度幾枚かのスケッチをする。そのスケッチを中心とした、画文集。

新ハイキング社　東京都北区滝野川7-6-13　電話・FAX 03(3915)8110

図書紹介

イラスト　蜂谷益雄

小荒井実・著
『湿原の花と山』改訂新版

吾妻、飯豊、尾瀬など福島の湿原の花と山のカラー写真集である。

観光道路の開発によって、手軽に山を眺め、花を見、満足して帰る観光客が増え、山の原始性や神秘性が失われてきていると嘆く著者が、未だ手垢に汚されていないオアシスを紹介した本である。そこを訪れたいという読者のため、簡単な地図とガイドも付されている。

イソツツジ、イワカガミ、コバイケイソウ、ハクサンシャクナゲ、チングルマ、ミズギボウシ……と次々に出てくる花の名や、植生の説明などを読んでいると、その風景まで目に浮かんできて、改めて日本の湿原の美しさ、豊かさに驚かされる。

自然をよく理解することが自然保護の基本との考えから入れられた「枯れ木の山」「雪国の花」、自然と人間の共生の姿を描く「火ばさみ」「草木塔」、武田久吉博士の感動や尽力が、当時のスナップ写真とともに述べられている「雄国湿原の発見」など、二十数編の囲み記事も興味深い。

この写真集が、わが国の自然の美しさを再認識し、自然との共生を願うよすがとなることを期待したい。

（中村純二）

一九九八年十月　歴史春秋出版発行　一四三ページ　二千二百円

傘木徳十・著
『山歩き五十年』
―躓きながら―

昭和二十～三十年代に精力的な登山活動を展開した傘木さんが、生い立ちから現在までの山を中心とした自叙伝を上梓された。

辛口の筆運びではあるが、物資の不足な時代に山に対して情熱を燃やし、初登攀や積雪期の白馬～穂高への大縦走等々を企画、成功させた手腕、計画立案から実行に移して、それぞれの反省点を克服し、より充実した山行へと実践した記録を終盤に載せている。

山歩きは「ハイキングに始まってハイキングに終わる」ものと思っている、と書かれていて、山登りを長年続けてこられたのは、里山など低山にもよく登っていたのが秘訣のようだ。

要所にモノクロを中心とした多くの写真も収録されている。

なお、七八ページに「日本登山記録大成13・白馬・後立山Ⅲ」の「鹿島槍北壁・浪速高校山岳スキー部」の記録に触れ、著者の天候と違いすぎるとの疑問を書かれているが、著者と同行した宮沢憲氏が東京農業大学山岳部の「報告第3号」に松濤明氏の追悼文で、また著者自身が発行責任者となって刊行した「山想Ⅴ・Ⅵ合併号」両方の記述により、昭和二十四年一月を二十三年一月と誤って記載したものと、この書評を書くにあたり、調査したら判明した。

（上北和夫）

一九九九年二月　東京新聞出版局発行　三一二ページ　二千八百円

小浜浩三・著
『妻と二人の山歩き【心得篇】』

本書は「山」六三七号で紹介され

ルーム日誌

5月

6日　常務理事会　山の自然学研究会　会報編集委員会
7日　フォトビデオクラブ　学生部
10日　総務委員会　アルパインスキークラブ
11日　山の自然学研究会　アルパインスケッチクラブ　95同期会
12日　理事会　ジャック93会
13日　フィルムビデオ委員会　学生部
17日　総務委員会　資料委員会　図書委員会　山げらの会
18日　百年史委員会　アルパインスケッチクラブ　集会委員会
19日　三水会　山研運営委員会
20日　科学委員会　アルパインスキークラブ　山の自然学研究会　データバンク研究会
25日　自然保護委員会
26日　臨時理事会
27日　アルバータ実行委員会　学生部
28日　学生部　山岳編集委員会　97同期会
29日　「新日本山岳志」編集委員会

5月来室者567名

た本と同じ題名に【心得篇】がついたユニークな本。心得篇というタイトルに興味を持たれる方がいる反面、改定版くらいに思われる方もいるので、再び紹介する。

評者は前著でも「各コースを通じて、多年にわたる経験から得られた役に立つアドバイスが随所に述べられており、一味違った山の案内書」と紹介したが、前著では紙数の関係で十分に意を尽くせなかったものと思われる。

本書はそれらの内容に最新の情報も加えて三十二章にコンパクトにまとめられている。しかも読物風になっているので、どの章からでも、気楽に読めるのもありがたい。

本会会員の中には、しばらくの間山から離れていて、中高年になってから登山を再開された人も目につくが、若いころの経験と勘に頼るのは危険である。このような人に役立つのはもちろんのこと、ベテランでも思わずハッとさせられる内容が多い。前著と併読されることをおすすめする。

（松田雄一）

一九九九年三月　光人社発行
二二六ページ　千七百円＋税

さんけんだより

今年も上高地でお持ちしています

木村太郎・弥生

車にぎっしり荷物を積み込んで山研入りしてから、早くも二カ月が経とうとしています。

半年ぶりの上高地で私たちを待っていたのは、懐かしい梓川、穂高の山並み、山研周辺の樹々でした。そしてもう一つ、昨年山研を訪れてくださった方々が、また今年も同じ笑顔で来てくださる、去年は味わえなかった再会の喜び、でした。

再会といえば、「山研猿軍団」ともさっそく会うことができました。唐突に山研の周りにやってきたと思ったら、テラスのテーブルで仲良くノミとりをしたり、椅子の上に寝転がったりと、好き放題にくつろいでいます。時々窓に鼻をくっつけて、山研内を覗き込むのも相変わらず。こちらが動物園の檻に入っているような気分になりながら、やっぱり嬉しくて、スケッチしたり、写真を撮ったりと、はしゃいでしまいます。そしてお互い「今年も来ました。よろしく」「山のことはこっちが先輩なんだからよくわきまえろよ」と挨拶を交わしたような気になります。

山研管理人二年目の私たちに、今年はどんなハプニングが待っているでしょうか。楽しいこと、嬉しいこと、上高地のそれぞれの季節のよさを、少しでも皆さんにおすそ分けできたらと思います。そして、辛いこと、腹立たしいことのおすそ分けだけはしないで済むよう願っています。

七月の上高地は、マガモ、オシドリの雛たち、色とりどりの花を目にすることができます。上高地のよさを体験しにいらっしゃいませんか。

コーボルト会・編
『コーボルト　―七十年―』

旧制山形高校山岳部は、昭和三年まだ静かだった蔵王山中に部のヒュッテを建てた。そしてこれを「コーボルト・ヒュッテ」と名づけた。

年表によると山岳部の創設は大正九年の開校と同時だから、その歴史はさらに古い。

ただ部報の発行は遅く、公式には昭和十年に初めて第一号が発行された。そして、第四号（昭和十三年）から部誌名も「KOBOLD」と改称された。

今度の七十年誌は、ヒュッテと山岳部七十年の歩みを、旧制山形高校・山形大学山岳部の同窓会組織であるコーボルト会が発行したもの。同会はさきに五十年誌（昭和五十三年）、六十年誌（昭和六十三年）とほぼ十年おきに記念誌を発行しており、七十年誌も装丁を含めて前二誌に準じた編集となっている。

内容はOBたちの回顧、随想的なものを中心に、一部研究、資料的なものを加え、ヒュッテとともに歩んだ七十年が綴られている。

そして、ヒュッテを通して交わった人々や山が、部員たちの精神形成をいかに豊かなものにしたかという流れを汲み取ることができるのである。

また「蔵王変遷史」、「蔵王山のアイスモンスター（樹氷）」など、ヒュッテと地縁的な資料は一読に値しよう。

最後に付言すれば、豊かな雪と山に恵まれ、古くからよい伝統を築いてきた山岳部だけに、その伝統を継承すべき現在の山形大山岳部の活動、動向に、よりスポットを当てた編集を望みたい。

（松家　晋）

一九九八年十月　コーボルト会発行
四一三ページ

図書受入報告（1999年５月）

著者	書名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈／購入別
関西登高会（編）	関西登高会50年史（1947－1997）	142pp/27cm	関西登高会	1999	発行者寄贈
東京都山岳連盟（編）	東京都山岳連盟50年の軌跡（1948－1998）	160pp/27cm	東京都山岳連盟	1999	発行者寄贈
田澤拓也	空と山のあいだ：岩木山遭難・大館鳳鳴高生の五日間	198pp/20cm	ＴＢＳブリタニカ	1999	出版社寄贈
浅野孝一	上高地ものがたり（とんぼの本）	119pp/22cm	新潮社	1999	著者寄贈
小荒井実	うつくしいふくしま：湿原の花と山［改訂新版］	143pp/24cm	歴史春秋出版	1998	著者寄贈
堀川虎男（編著）	中高年登山トラブル防止小事典	287pp/21cm	大月書店	1999	出版社寄贈
小疇尚	大地にみえる奇妙な模様（自然史の窓　No.6）	160pp/19cm	岩波書店	1999	著者寄贈
ＪＡＣ自然保護委員会(編)	山を美しく保つために：フィールドマナーノート	16pp/15cm	日本山岳会	1999	当会発行
M.C.of South Africa(ed.)	Journal of the Mountain Club of South Africa (1997 Nr.100)	291pp/24cm	M. C. of South Africa	1998	発行者寄贈
Jan Kielkowski	Kangchenjunga Himal & Kumbhakarna Himal	201pp/21cm	Explo	1999	著者寄贈
梓書房（発行）	山［復刻版・合本］第1巻（昭和9年1月－6月号）	334pp/23cm	出版科学総合研究所	1980	今西芳子氏寄贈
梓書房（発行）	山［復刻版・合本］第2巻（昭和9年7月－12月号）	818pp/23cm	出版科学総合研究所	1980	今西芳子氏寄贈
梓書房（発行）	山［復刻版・合本］第3巻（昭和10年1月－6月号）	324pp/23cm	出版科学総合研究所	1980	今西芳子氏寄贈
梓書房（発行）	山［復刻版・合本］第4巻（昭和10年7月－12月号）	580pp/23cm	出版科学総合研究所	1980	今西芳子氏寄贈
梓書房（発行）	山［復刻版・合本］第5巻（昭和11年1月－6月号）	312pp/23cm	出版科学総合研究所	1980	今西芳子氏寄贈
梓書房（発行）	山［復刻版・合本］第6巻（復刊にあたって／総目次）	478pp/23cm	出版科学総合研究所	1980	今西芳子氏寄贈
諏訪多栄蔵（編）	日本の山と人［改訂版］：現代登山全集　第1巻	296pp/22cm	東京創元新社	1976	今西芳子氏寄贈
三田博雄	山の思想史（岩波新書　No.860）	236pp/18cm	岩波書店	1973	今西芳子氏寄贈
坂倉登喜子・梅野淑子	日本女性登山史	181pp/22cm	大月書店	1992	今西芳子氏寄贈
上條武	孤高の道しるべ：穂高を初縦走した男と日本アルプス測量登山	597pp/22cm	銀河書房	1983	今西芳子氏寄贈
斉藤一男	岩と人：日本岩壁登攀史	337pp/22cm	東京新聞出版局	1980	今西芳子氏寄贈
高頭式（編）	日本山嶽志［復刻版］	804pp/23cm	大修館書店	1970	今西芳子氏寄贈
東大山の会（編）	山と友：東大山の会50周年記念	448pp/22cm	東京大学山の会	1981	今西芳子氏寄贈
高橋定昌	日本岳連史：山岳集団50年の歩み	472pp/18cm	出版科学総合研究所	1982	今西芳子氏寄贈
徳岡孝夫	ヒマラヤ：日本人の記録（毎日ノンフィクション・シリーズ）	279pp/20cm	毎日新聞社	1964	今西芳子氏寄贈
西岡一雄	登山の小史と用具の変遷	246pp/22cm	朋文堂	1958	今西芳子氏寄贈
山崎安治	日本登山史	324pp/22cm	白水社	1969	今西芳子氏寄贈
山崎安治	日本登山史［新稿］	563pp/22cm	白水社	1986	今西芳子氏寄贈
北大山の会（編）	北大山岳部五十周年記念誌1978	457pp/22cm	北大山の会	1979	今西芳子氏寄贈
芸心社編集部（編）	世界文化史年表	94pp/20cm	芸心社	1983	今西芳子氏寄贈
中島暢太郎	パタゴニア氷河紀行	203pp/21cm	リブロポート	1991	今西芳子氏寄贈
橘瑞超	新疆探險記	104pp/19cm	民友社	1912	今西芳子氏寄贈
飯島茂	ヒマラヤの彼方から：ネパールの商業民族タカリー生活誌	154pp/19cm	日本放送出版協会	1982	今西芳子氏寄贈
吉良竜夫	自然保護の思想	253pp/20cm	人文書院	1978	今西芳子氏寄贈
長沢和俊	日本人の冒険と探検	468pp/21cm	白水社	1975	今西芳子氏寄贈
越後宏治（編）	世界山岳地図集成：カラコルム・ヒンズークシュ編	350pp/37cm	学習研究社	1978	今西芳子氏寄贈
越後宏治（編）	世界山岳地図集成：ヒマラヤ編	330pp/37cm	学習研究社	1977	今西芳子氏寄贈
越後宏治（編）	日本山岳地図集成（第1集）：北海道→中部山岳（北部）編	199pp/38cm	学習研究社	1975	今西芳子氏寄贈
越後宏治（編）	日本山岳地図集成（第2集）：中部山岳（南部）→九州編	187pp/38cm	学習研究社	1975	今西芳子氏寄贈
中国人民美術出版社（編）	チベット：西蔵	236pp/33cm	美乃美	1981	今西芳子氏寄贈
日本山岳会（編）	チョモランマ・チベット：日本山岳会珠穆朗瑪登山隊公式報告	151pp/32cm	講談社	1981	今西芳子氏寄贈
高木泰夫（編）	ヒンズークシュ・カラコルム登山研究誌：田中栄蔵古希記念　No.1	143pp/26cm	日本ﾋﾝｽﾞｰｸｼｭ・ｶﾗｺﾙﾑ会議	1980	今西芳子氏寄贈
高木泰夫（編）	ヒンズークシュ・カラコルム登山探検誌：田中栄蔵古希記念　No.2	241pp/26cm	日本ﾋﾝｽﾞｰｸｼｭ・ｶﾗｺﾙﾑ会議	1980	今西芳子氏寄贈
京都大学学士山岳会（編）	ヤルン・カン学術調査報告書：ヤルン・カン遠征隊　1973	61pp/27cm	京都大学学士山岳会	1975	今西芳子氏寄贈
京都大学山岳部（編）	剣岳遭難報告・追悼　1980年12月	102pp/26cm	京都大学山岳部	1983	今西芳子氏寄贈
各務良幸・麻生武治	山岳大観：雪・岩・氷・河	56pp/27cm	木星社書院	1933	今西芳子氏寄贈
中国登山協会（監修）	中国の高峰：High Mountain Peaks in China	196pp/26cm	東京新聞出版局	1981	今西芳子氏寄贈
南極探検後援會（編）	南極記	468pp/23cm	南極探検後援會	1913	今西芳子氏寄贈
Walter Weston	Mountaineering and Exploration in the Japanese Alps	346pp/25cm	Taishukanshoten	1975	今西芳子氏寄贈
Harka Gurung	Nature & Culture : Random Reflections	166pp/22cm	Saroj Gurung	1989	今西芳子氏寄贈
Club Gallery (ed.)	Catalogue of the Centenary Exhibition	32pp/22cm	Club Gallery	1957	今西芳子氏寄贈
Walter Weston	The Playground of the Far East	337pp/23cm	Taishukanshoten	1978	今西芳子氏寄贈
Bill Willett	Philips' New World Atlas [7th ed.]	96pp/32cm	George Philip	1987	今西芳子氏寄贈
H. Kihara (ed.)	Peoples of Nepal Himalaya	479pp/27cm	Kyoto Univ.	1957	今西芳子氏寄贈
Wilfrid Noyce (ed.)	World Atlas of Mountaineering	224pp/28cm	McMorrin Nelson	1969	今西芳子氏寄贈
Fridtjof Nansen	Through Siberia : The Land of the Future	478pp/26cm	William Heinemann	1914	今西芳子氏寄贈
Roald Amundsen	The South Pole (Vol.1)	392pp/24cm	John Murray	1912	今西芳子氏寄贈
Roald Amundsen	The South Pole (Vol.2)	449pp/24cm	John Murray	1912	今西芳子氏寄贈
Andy Dennis	The Alpine World of Mount Cook National Park	97pp/30cm	Cobb	1983	今西芳子氏寄贈
Janie Freeburg	Denali National Park : An Island in Time	79pp/29cm	Sequoia Communication	1986	今西芳子氏寄贈
R.H.Brigadier	Survey of India Maps Catalogue	/36cm	Survey of India	1931	今西芳子氏寄贈
F.S.Smythe	The Kangchenjunga Adventure [1st cheap ed.]	464pp/24cm	Victor Gollancz	1932	今西芳子氏寄贈
George Seaver	Francis Younghusband : Explorer & Mystic	391pp/23cm	John Murray	1952	今西芳子氏寄贈
J.S.Keates (ed.)	The Penguin Atlas of the World	171pp/21cm	Penguin Books	1956	今西芳子氏寄贈
Masayoshi Murayama(ed.)	Report of the Japanese Traverse Syowa-South Pole　1968-1969	279pp/27cm	Polar Research Center	1971	今西芳子氏寄贈
G.O.Dyhrenfurth	Himalaya : Unsere Expedition　1930	380pp/24cm	Verlag Scherl	1931	今西芳子氏寄贈
J.N.Collie	Climbing on the Himalaya and Other Mountain Ranges	315pp/23cm	David Douglas	1902	今西芳子氏寄贈

会務報告

【五月理事会】

日時　五月十二日(水)　十八時三十分～十九時四十五分

場所　日本山岳会会議室

[出席者]斎藤会長、小倉、大森、竹内各副会長、田邊、吉永、熊崎、絹川各常務理事、勝山、村井、鰺坂、飯田、森、大蔵、宇田川、宮崎、坂本各理事、石橋、神崎各監事、平山、穴田、中川、各常任評議員

[委任]増山理事、平野、長尾、中村常任評議員

○議事に先立ち斎藤会長より在任の二年間について感謝の挨拶があった。

【審議事項】

一、平成十一年度通常総会議案について　絹川

総会の議事進行、当日欠席の理事・評議員の確認、議事録署名人の候補などについて説明。　承認

二、資料貸出しの件　絹川

東京都写真美術館の企画展「山を愛する写真家たち」に、本会所蔵の冠氏他の写真貸出しについては、既に同企画を承認しているので資料担当理事に諮って承認したい。　承認

三、名義後援の件　絹川

アルパインフォトビデオクラブより例年の夏山前の写真展に加えて、本年はギリシャ・アテネでの写真展に後援の要請があった。　承認

【報告事項】

アルバータ実行委員会・熊崎

第二回実行委員会開催の報告。

総務委員会・絹川

各支部総会の報告が届いている。また、山梨支部より木暮祭への役員派遣要請および都岳連評議員会には小倉副会長が出席する。

医療委員会・大森副会長

登山医学シンポジウムは五月二十～二十三日、富山で開催予定。

山研委員会・坂本

ミニ水力発電は五月初旬より学生部の協力を得て実作業に入り、パイプ工事は終了した。

自然保護委員会・大蔵

新フィールド・ノートの配布他。

財務委員会・吉永

カンチェンジュンガの保険金について説明があり、赤坂、椎名両家に弔慰金としてお渡しする。

資料委員会・鰺坂

六、七月の理事会はガッシャーブルム登山のため欠席、溝口委員が代行する。

総務委員会・絹川

事務局の土曜休日は昨秋より試行中だが、評議員会に諮った結果、当分の間現行のまま試行を続ける。

青年部・宇田川

会員有志による「日本リャンカンカンリ登山隊」は五月九、十日、初登頂に成功した。

【五月臨時理事会】

日時　五月二十六日(水)　十九時～二十時五十分

場所　日本山岳会会議室

[出席者]大塚会長、小倉、大森各副会長、宮崎、村井（葵）、坂本、勝山、増山、森、鰺坂、河西、村井（龍）、高遠、宮下、西村、高原、坂井、山本、松原各理事、神崎監事、平山、中川、平野各常任評議員

[委任]竹内副会長、中村監事、田邊、吉永各常任評議員

○議事に先立ち大塚会長が抱負を述べた。要旨は以下の通り。

当会は山の好きな者が集まった会で、理事はクラブサーバントと考える。アグレッシブ、チャレンジ精神、そして楽しさを基本としたい。

運営では、常務理事会でルーチンワークを、理事会を中心として事を決めていきたい。審議はじっくり、報告は短くをモットーに。副会長は特に担当を決めないで、会長のサポートを。会長職務代行順序は、小倉、大森、竹内副会長とする。

会からのメッセージは重要で、中でも一番は会報である。内容はすべて理事会が責任を持つことを再認識し、きめ細かな熱いメッセージとしたい。また、インターネットホームページの充実を図りたい。

二〇〇五年の百周年を見据えて活動し、次期へバトンタッチしたい。斎藤前会長より若手登山者育成、自然保護、中高年対策の三つのテーマを引き継いだ。現在の当会の歩みそのもので、具体的推進は各委員会にお願いしたい。

【審議事項】

一、常務理事と担当委員会委嘱の件　大塚会長

村井、宮崎、西村、森各理事に常務理事を委嘱する。各理事の担当委員会は四ページ参照。　承認

二、六月からの理事会開催日は第二水曜日、常務理事会は第二火曜日。

三、常任評議員委嘱の件　大塚会長

五月十五日の評議員会で互選された平山、中川、平野、田邊、吉永各評議員に常任評議員を委嘱。　承認

四、エベレスト国際隊への参加要請の件　増山

四月末、日山協よりエベレスト国際隊への参加依頼があった。（ダイレクトルートで、フランスを主とする国際隊。UIAAが母体）宮崎、坂井、山本、増山各理事により審議する。　継続審議

【報告事項】

図書管理委員会の件・小倉副会長

図書管理委員会の組織替えについて、図書は会の財産との考えから、財務委員会の中に位置づける。図書購入は、各委員会から希望を聞き、年三回程度開催して決める。

財務委員会・村井（龍）

総会で承認された予算の枠内で運用を図りたい。仮払いは遅くとも二、三日前に手続きを。現金を渡す人は担当理事とする。不在の場合は、事前に定められた代理者に限る。

学生部・宮崎

日中合同登山は双方十名ずつで四川省の山を計画中。六月十一、十二日、北京で打ち合わせを予定。

山研委員会・坂本

五月十七日より一ヵ月、山研について信濃毎日新聞に連載中。

自然保護委員会・河西

自然保護全国集会は九月十八、十九日、栗駒山山麓で開催予定。

データバンク研究会・鰺坂

当研究会は、資料委員会担当理事が予算対応も含めて対応。

総務委員会・西村

各理事は担当する委員会委員の名簿を六月三十日までに提出願いたい。

■会員異動

物故

安間一勇（一〇七六〇）98・3
星野信男（一〇六五五）98・3・5
平野義明（三二四九）99・5・11
粟野光夫（一一六四七）99・5

退会

桜井明（八六五六）
冨士田錬子（一一九九一）
宮田隆（一二四一七）
宮田若奈（一二四一八）
松田清彦（一二〇三七）
西村久平（六七八三）
百田治人（八七一八）
宮地由文（九〇一七）
近藤眞幹（九二三八）
伊吹泰次郎（一〇六二〇）
大下研一（一一八九六）
柴田廉（一一六九八）
原田勉（一一八七二）
田中茂（九五七八）
木本康之（一〇四六五）
山口有造（一〇二五三）
松尾寿（五四二五）
斎藤宏（一〇一〇〇）
和田晴光（四七〇七）

改姓

日高次子（一二〇二八）→松浦次子

終身会員

藤野欣也（四五七四）
土屋満（四六六七）
仲徳二（四八五三）
伊藤義雄（四八七一）
町田悌（四八八一）
山口俊輔（四九七六）

INFORMATION

◆一九九九年度自然保護全国集会

自然保護委員会

宮城支部の協力を得て、栗駒高原で開催します。

日時　九月十八日(土)～十九日(日)
会場　栗駒町・いこいの村栗駒
十八日①栗駒山の自然とその保全について
②日本山岳会の自然保護活動の在り方について
十九日①栗駒山登山
②世界谷地原生花園で自然観察会
費用　一万一千円（予定）
申込　八月十八日までに大山恭司宛
ハガキで〒三三〇―〇〇〇五
大宮市小深作二二〇―八
＊申込者には詳細を連絡します。

イラスト・村上直温

◆会員名簿の改定についてのお願い

総務委員会

会員名簿は二年ごとに改定されます。今年十二月に平成十一年度版の発行を予定しています。

住所や電話番号などの変更がありましたら、八月末日までに事務局へご連絡ください。

■訂正

五月号（六四八）一八ページの $\tan\theta = \frac{(E-Q)\overline{COSN}}{N-P}$ は $\overline{\cos N}$ の誤りでした。お詫びして訂正します。

◆編集後記◆

会報も新しい年度の始まり。時は虚しく過ぎ去るものにあらず、志あるケルンを積み重ねるためにあると信じます。会員各位のアグレッシブなご活躍を祈念します。

心を新たに会報の充実に邁進する所存ですので、旧に倍する熱烈なご支援を希望します。　**（村井）**

●原稿送付のお願い

宛先　村井葵（〒一九四―〇〇二二　町田市森野三―二―一）
FAX・〇四二―七二二―五五二八
パソコンで原稿製作される場合はE―メールで奈良原町子宛
narahara@mvc.biglobe.ne.jp
FAX・〇三―三三三四―八一一三

日本山岳会会報　山　650号
1999年（平成11年）7月20日発行
発行所　社団法人日本山岳会
〒102－0081
東京都千代田区四番町5－4
サンビュウハイツ四番町
TEL 東京(03) 3261－4433
FAX 東京(03) 3261－4441
発行者　大塚博美
編集人　村井　葵
印　刷　株式会社　双陽社